

[仙台市職員間伝承ガイドブック]

災害の経験に学ぶ

— From 3.11 ガイド —

本ガイドブックは、東日本大震災をはじめとする、さまざまな災害の経験や教訓を仙台市職員間で継承し、災害対応力の強化・日常業務の不断の見直しにつなげるなど、**災害の経験や教訓が息づく組織風土を醸成**することを目的に、職員間伝承の方向性やツールなどをまとめたものです。研修や所属でのミーティングなど、既存の機会での活用を想定しています。



ガイドブックの構成

段階的に学びを深めていくため、2種類の教材を作成・紹介しています。

ステップ1 経験や教訓を学ぶ「eラーニング教材」

仙台市復興五年記録誌の「仙台の気づき」に基づき、事実と教訓、対策などを学ぶためものです。テーマごとに次の4つの項目に分かれています。

- ① 「災害の教訓」を学ぶ
- ② 「教訓を踏まえた対策」を学ぶ
- ③ 「プロセスや留意事項など」を学ぶ
- ④ 学びの振り返り



ステップ2 「もし自分だったら？」主体的に考える「対話型ワークシート教材」

職員の証言記録(災害エスノグラフィー調査の記録)から、災害時にどのような行動・意識が求められるのかを学び解くためのワークシートです。

3種類のワークシートと、証言記録を用いながら、事例における判断はどのような観点から行われたと考えられるか他にどのような行動・判断を取り得るかなどを考え、職員間での対話につなげます。

